

令和6年度 県立日立第一高等学校全日制（単位制） 自己評価表

目指す学校像	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。 そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに3年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを目指す。 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒				
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成するため、次のような資質・能力の育成を目指します。 ○自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる資質・能力 「やり抜く力」＝GRIT：Guts、Resilience、Initiative、Tenacity ○物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる資質・能力 ○高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる資質・能力 ○運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる資質・能力			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○進学重視型単位制の特徴を活かし、多様な選択科目を設置し、少人数授業を展開します。 ○普通科では、文系コース・理系コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○サイエンス科では、医学コース・医学系進学コース、理工系進学コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○教科指導の充実に努め、主体的・対話的な深い学びを推進し、課題発見能力や課題解決能力を育成します。 ○生徒が主体的に取り組む学習活動と特別活動の両立を推進し、生徒のやり抜く力や自ら健康を管理する力を育成します。 ○生徒が主体的に企画・運営する生徒会活動・学校行事等を充実させ、自主性や豊かな人間性を育成します。 ○国際交流、高大連携事業、大学・職場見学、ボランティア活動等の体験事業を推進し、生徒の高い志を育成します。 OSSHで培った「課題研究」を推進し、論理的に議論できるリーダーを育成します。			
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	○本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ○他者と協働して活動し、主体的に学ぶ姿勢を有している生徒 ○課題を見出し、課題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有している生徒			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標	達成状況
【学習指導・進路指導】 【成果】 ・3年間を通した探究活動への積極的な取組により、各種大会で輝かしい実績を残している。 ・個に応じた進路・進学指導が実を結び、生徒個々の進路希望に応じた多様な大学への進学者が増えるとともに、東京大学や京都大学、筑波大学医学類などの難関大学への進学者が継続して出ている。 【課題】 ・主体的・対話的で深い学びの一層の推進による授業改善 ・進学ノウハウの共有と成果検証 ・各自の進路形成に資するキャリア・パスポートの効果的な活用 【生徒指導】 【成果】 ・生徒の自主性・自律性を重んじた一貫した指導により、生徒指導上のトラブルは少ない。 【課題】 ・長欠等、目標を見失った生徒や特別な配慮が必要な生徒へのケア 【特別活動】 【成果】 ・学校行事や部活動に生徒が積極的に参加している。部活動と家庭学習のバランスを上手に取れる生徒が増えてきた。 【課題】 ・リーダー的資質の育成 【国際教育】 【成果】 ・カナダへ渡航し、カナダのSDGsへの先進的な取り組みに対する理解や異文化理解を深めることができた。 【課題】 ・海外研修に参加していない生徒への還元方法 【科学教育】 【成果】 ・SSH事業を通して、サイエンス科・普通科ともに課題研究で探求・研究活動を進める際の活動計画性やICT技術、ディスカッション力が向上している。 【課題】 ・課題研究での結果・考察における数値の取り扱い及び、発表会時の質問者側のディスカッション力 【働き方改革】 【成果】 ・様々な取り組みにより、一人一人の業務量が多くなっている。 【課題】 ・教員一人一人の意識改革による残業時間の縮減		1	高い志の育成	①生徒の進路希望を達成する教育課程の改編の検討（教務部、進路指導部、各教科）	A
		2	学力の向上	②タブレットの活用の推進及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し、生徒の授業満足度（項目5、6）の学校の評価平均3.5以上（教務部、進路指導部、各教科） ③総合的な探究の時間の充実・改善（教務部、SSH、1・2年次） ④先取学習や学習の深化などの附属中学校の学習指導の教科内共有と高校との接続についての充実（各教科） ⑤特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に対する組織的な支援の推進（教務部、各年次、各教科）	A
		3	豊かな人間性の育成	⑥教育相談や面談を通した生徒理解及び生徒・保護者支援の充実（教育相談部、各年次） ⑦主体的な態度を育てる特別活動や学校行事の工夫・改善（特活指導部、各年次）	B
		4	働き方改革	⑧業務の効率化及び複数人体制による、個人が抱える業務量の軽減（各校務分掌） ⑨将来的な部活動の地域移行等も視野に入れた働き方の抜本的な見直し（特活指導部、教務部）	B

評価項目		具体的目標	具体的方策				評価		次年度(学期)への主な課題
国 語	1	〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の二領域の資質・能力を総合的に育成し、基礎学力を養成する。(第1年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	①、⑤	A	A	個別指導の徹底・成績不振生徒への支援・中高一貫教育接続研究・論述力の育成と向上 上位層のさらなる伸長と低学力層への支援 新しい教育課程への各科目の対応 小テストに対するモチベーションの維持・模試の成績を踏まえた、より生徒に実情に合わせた指導の実施 中高の交流促進	
			2)	中高合同で定期的に授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図る。	①、④	A			
			3)	中学生との交流授業を計画、実施して、中学校の深化学習と中高一貫教育の接続の在り方について研究する。	①、④	A			
			4)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、調和的な言語能力を育成する。	①、②	B			
	2	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの応用学力を養成する。読解力、鑑賞力、表現力の育成・向上を図る。(第2年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	①、⑤	A			
			2)	中高合同で定期的に授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育の在り方について研究する。	①、④	B			
			3)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、論理的な思考力・表現力を養成する。	①、②	B			
	3	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの受験に対応した学力のいっそうの向上を図る。言語文化に対する広くかつ深い関心を持たせ、高等教育に接続する思考力を育成する。(第3年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含め、生徒の進路希望を達成するために学力の向上を図る。	①、⑤	A			
			2)	中高合同で定期的に授業参観や教科会での研修を行って授業の改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育の在り方について研究する。	①、④	B			
			3)	年次に応じた読書指導と表現指導を行い、個別指導により進路希望の分野に応じた論述力の育成と向上を図る。	①、②	A			
地歴公民	1	中高一貫教育校として、工夫された教育課程を編成し、生徒の進路希望の実現に向けて、学力の向上に努める。実施にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しに留意しつつ、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1)	1・2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着を図る。3年次においては、授業を基本として学習を進めることの他に、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。	①、②	A	A	中高接続を意識した学習活動の展開 ICT活用及び「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践 学力層に応じた個別の課題設定	
			2)	附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、中高接続を意識した学習活動を展開する。	①、②、④、⑤	B			
			3)	中高の教員が一体となって、内進生への指導過程を再検証することで、最難関大学合格へ向けた指導の在り方を検討する。	①、②、⑥	B			
			4)	ICTの活用及び「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身に付けさせる。	①、②	B			
	2	地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。	1)	1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身に付けさせる。	①、②、③	A			
			2)	3年次の授業では、1・2年次の学習内容を基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。	①、②	A			
	3	公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。	1)	1年次の「公共」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。	①、②	A			
			2)	3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着を図るとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学共通テスト以上の水準を維持する。	①、②	A			
数 学	1	3年間を見通した学力の養成	1)	1年次(高入) 基本的な知識・技能の習得の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。	①、⑤	A	A	・中高一貫の教科指導の在り方の研究 ・共通テストに向けた教材研究 ・電子黒板やタブレットを用いたICT活用する指導の向上 ・SSHとの連携 ・難関大入試に向けた教材研究	
				1年次(内進) 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して知識を活用する能力を養っていく。	①、④、⑤	A			
			2)	2年次(普通科) 教科書内容の理解の徹底を図り、章末テストを行う。さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。	①	A			
				2年次(サイエンス科) 教科書内容の理解の徹底を図り、章末テストを行う。さらに、発展的な内容の問題演習を行い実力養成を図る。	①	A			
			3)	3年次(普通科) 少人数授業を行うことで、文系、理系を問わず、大学入学共通テストに対応するだけでなく、記述力の養成を図る。	①	A			
				3年次(サイエンス科) 少人数授業で、大学入学共通テストの対応はもちろん、発展的、融合的な記述問題にも取り組み、記述力の養成を図る。	①	A			
	2	指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底、計算力の育成	1)	「課外等(3年次)」により基礎力を培う。「課題(2年次)」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週末課題」を課し、単元ごとに章末テストを行う。	①	A			
	3	成績上位者のさらなる学力向上	1)	成績上位者に対する個別指導を行う。	①	A			
	4	知識量に頼らない応用力の育成	1)	週末課題や章末テストの実施を通し、予習・復習の習慣化を徹底させ、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	①	A			
	5	既習分野の実力育成	1)	ネットワークを通した教材配信などを通して、既習・未習分野の学習内容の理解を深めさせ、次年度の授業につながる学力を養成する。	①、②	B			
	6	「科学する心」の育成	1)	白星研究等の授業を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	①	B			
	7	中高6年間を通した指導の研究	1)	発達段階や個に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	①、④	B			
	理 科	1	自然現象の中に見られる物理法則の学習を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。	1)	小テストや確認テストにより知識の定着を図るとともに、演示実験や生徒実験を通して、自ら疑問を解決する生徒を育成する授業を展開するように努める。	②	A		A
2		身の回りにある物質に対する興味・関心を持たせ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	1)	演示実験や生徒実験を多く行うことで知識の定着を図り、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業を目指す。	②	B			
3		中高6年間を通した指導の研究	1)	中高一貫校の強みを生かし、学習内容とともに中学校での発表やディスカッションが活かせる授業づくりを研究・実施する。	④	B			
4		身の回りの自然や物事を探究する態度を育てるとともに、地学的な知識・原理・法則を身に付けさせる。	1)	大学入試共通テストに必要な知識の定着を図る。また、観察・実験時のグループワークやレポートの提出を通して、地球や自然現象についての概念に興味を持ち、主体的に学ぶことで理解を深める授業を目指す。	①、②	A			
5		共通テスト及び二次試験に十分対応できる学力を身に付けさせる。	1)	二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	②	A			
6		生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。	1)	小テストや定期考査の結果や提出物の状況から、個別指導や成績不振者に対する課題提出など基礎力定着のための指導を行う。	⑤	A			
7		科学的ディスカッションをできるリーダーの育成を図る。	1)	「主体的・対話的で深い学び」の機会を設けた授業展開により、基本的な研究スキルを身に付け、科学的ディスカッションができる人材の育成を図る。また、評価の研究も行う。	②	A			
8		生徒の学力向上のため、さらなる科内連携の強化を図る。	1)	中学・高校の教員がそろう科会を利用して、附属中学や高校で学習する教科書や理科実験の内容を定期的に紹介し、実験方法や考察などについて意見を交換することで、中高6年間における学力向上を図る。	①、②	B			
	2)		特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する情報を科内で共有し、組織的に対応を図る。	②、⑤	B				

保健体育	1	個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともにグローバルな視野で健康をとらえ実践していく力を育む。	1)	これからの社会を担う一員としてグローバルな視点で健康について考える重要性を理解させる。	①、②	B	A	・保健の授業においてICTを活用し、生徒自らが健康についての調べ学習、グループ発表をさらに多く取り入れたい。 ・今年度体力テストにおいては県1位の結果であった。来年度も継続して1位を目指させる。 ・実技の授業でも、ICTをさらに活用できるよう情報交換や研修に努めたい。
			2)	課題解決型グループ学習での主体的・対話的な学びを通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	①、②	A		
			3)	視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する重要性を認識させ、知識を見識へと導く。	①、②	A		
	2	運動技能を高め、強健な心身の発達を施すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツに興味・関心を示し、主体的に運動を実践できる能力と態度を育む。	1)	体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	①、②	A		
			2)	生涯体育に繋がる体育好きな生徒の育成を目指し、新体力テストでは県トップレベルを目指す。	①、②	A		
			3)	各種目において、自己やチームの課題に応じた反復練習や課題練習を通して、主体的に運動技能を高める。	①、②	A		
4)	各種目において、作戦を立て、攻防の仕方を工夫し、練習やゲームができるようにする。	①、②	A					
5)	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができるようにする。	①、②	B					
芸 術	1	感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1)	生徒が芸術に主体的に関わり、知覚・感受したことを互いに共有・共感し合う中で芸術文化を理解し、意図を持って表現できるような指導に努める。	①②④	A	A	・歴史や理論の授業においてICTを活用し、生徒自らが調べ学習に取り組む体制を作り、グループ発表をさらに多く取り入れたい。 ・実技の授業でも、ICTをさらに活用できるよう情報交換や研修に努めたい。 ・芸術系進路希望者に対する指導をさらに充実させる。
			2)	表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	②	A		
	2	芸術系進路希望者の実力養成	1)	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	②⑤	A		
英 語	1	英語を読み、書き、聞き、話す活動を通して、実践的コミュニケーション力の基礎を習得させる。	1)	英語コミュニケーションIでは、少人数授業の利点を生かし、生徒の活動をベースとする授業を行い、内容理解力とともに自己表現力の育成に努める。	①、②	A	A	・家庭学習の習慣付けが不十分であった。英語力の向上には、授業以外の自学時間が必須であることをしっかりと認識させたい。 ・一部の論理・表現Iが「カセット」設定されていたこと等が影響し、一時的に授業の感覚が大きく開いてしまうことがあり、同科目に振り当てていた文法項目学習に支障が生じた。少単位数科目の授業時間数の確保が望まれる。 ・応用の土台となるはずの基礎力が不十分と目される生徒が少なくない。学習意欲の喚起等も含め、全体の底上げが必要である。
			2)	論理・表現Iでは、複数教師による指導体制のもと適切に連携を図り、4技能の習得を意識しながら、基本的な文法や語彙の運用力を養成する。	①、⑤	A		
			3)	授業では、ペアワークやグループワークを活用し、4技能の統合や観点別評価に対応した言語活動を取り入れ、考查問題の工夫に努める。	①	A		
			4)	授業の補完的・発展的な学習として、課題(週末課題・宿題)や副教材を活用し、家庭学習の効果的な動機付けを図る。	①、②	B		
			5)	授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。	①、④	B		
	2	読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1)	英語コミュニケーションIIでは、教科書の題材に関連した言語活動を工夫し、生徒の学習への興味・関心を高められるよう努める。	②	B		・スピーキング活動をより充実させ、より積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。 ・高いレベルの英語力(CEFR B1以上)を身に付けるための指導を工夫していきたい。
			2)	論理・表現IIでは、音読練習や問題演習を通して基本的な文法や構文を理解し、様々な場面や状況に応じて適切に英語を運用できる力を身に付けさせる。	①	B		
			3)	外国人教員やALTとのコミュニケーション活動を通し、積極的に英語を使おうとする態度を育てる。	①	A		
			4)	授業の補完的・発展的な学習のために副教材を計画的に取り入れ、高いレベルの英語力を身に付けさせる。(英検2級～英検準1級程度)	①、④	B		
			5)	ICTを効果的に活用することで英語に触れる機会を増やすとともに、個に応じた指導を充実させる。	①、⑤	A		
	3	英語の4技能5領域を統合的に結び付けた言語活動を通して、情報や考えを理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を養う。	1)	英語コミュニケーションⅢの授業では、テキストの文構造を正しく理解した上で内容を読み取らせる指導に重点を置き、読み取った内容を相手に分かりやすく英語で伝える力を養う。	②、④	B		・ICT機器を活用し、生徒にとってわかりやすく興味を引く指導を行うことができた。 ・シラバスに則った指導を展開することができた。 ・成績不振者に対する手立てが不十分であった。 ・語彙や文法の定着を図るために月例テストを実施したが、生徒の基礎基本の定着が不十分であった。 ・Speakingにおける「やりとり」の領域において十分な言語活動を取り入れることができなかった。
			2)	論理・表現Ⅲの授業では、演習問題を通して文法や語法の知識を定着させ、あるトピックについてまとまった英文を書いたり、自分の考えを発表できる力を育てる。	②、④	B		
			3)	生徒の学習到達度に応じた課外授業を展開し、生徒が自ら学ぶことのできる学習機会を充実させる。	④、⑤	A		
			4)	ICTを活用した工夫ある指導を展開し、学び合いや個に応じた指導を充実させるとともに、指導と評価の一体化を図る。	②、④	A		
			家 庭	1	人の一生を見通しながら持続可能な社会の構築を目指して生活する能力の育成	1)		
2)	グループ学習を取り入れ、人と関わり共に生きる態度と協力して生活を創造する力を養う。	②				A		
3)	安全に気を配り、実習助手と協力してきめ細かい指導を心がけた実習を行う。	⑤				A		
2	課題解決能力の育成	1)	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、家庭や地域の課題を発見し、生活を充実向上させる力を育てる。	④	B			
情 報	1	情報社会に参画する態度の育成	1)	講義や実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、情報モラルを習得させる。	①	A	A	・共通テスト実施年度における研究・検証から指導改善の研究を行う。 ・新3年次への対応についての指導と研究
	2	情報活用実践力の育成	2)	実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループ作業・プレゼンテーション活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	①、②	B		
	3	新教育課程・共通テストの研究	3)	新教育課程における授業内容・授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。また、共通テストにおける分析を行い、次年度移行への学習指導法の研究・実践に努める。また、多様な生徒に対応した授業づくりに努める。	②、④、⑤	A		

教務部	1	学校行事の円滑な運営に努め、実施後に広く意見を集約し十分な検証を行う。新規行事に特に注意し、来年度以降の内容の充実に努める。	1)	学校行事の内容を十分検討し、適正な時期に計画し実施する。目的を明確にし、効果的な役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について検討を行い、内容の充実に努める。	①	A	A	① 先取学習をしている附属中学校と連携し、教育課程を精査し、より効果的な教育活動を行えるように整備していく。 ② 定期考査時の緊急時対応に関して監督時にタブレットを持参しGoogleMeetを繋いでいるが、取り組みが2年目を迎え、教員間で定着してきた。慣れから来るミスが無いよう、さらに改善していきたい。 ③ 中学生の数が激減している県北地区では、生徒募集にかなりの困難が生じており、入試倍率も過去最低となった。今後、学校を挙げて対策を講じる必要がある。夏季に実施した学校説明会だけで無く、今後は、定期的な説明会を各地域ごとに行う広報活動の必要性も大きくなっていると感じている。 ④ 各係ともその職責を十分に果たし、多忙の中でもミス無く、様々な教務的活動を継続・実施できた。感謝申し上げたい。特に時間割係は通常の時間割変更や特編時の対応、考査時の対応を含め、要望に応えながらのハードワークは後継者育成の際にも大きな課題となる。大幅な人員の入替が行われると、支障が出る可能性は大きい。 ⑤ 年間行事・月例行事に関して、各部・年次と常に情報を共有し、よりよい日程を検討しながら修正・実行できた。 ⑥ 教務の情報係においては、係主任が様々な問題案件に対しても常に先回りして解決策を提示し、生徒・職員に提示してくれたので円滑に進行できた。 ⑦ 生徒の端末・教室の電子黒板の不具合が以前より多く見受けられるようになっており、対応が難しくなっている。ZoomやMeet・ロイロノート・YouTube等に関する専門知識をもった教員の育成も大きな課題である。
			2)	各学校行事について、関係する校務分掌や年次との連携を密にし、円滑に運営出来るよう努める。また、附属中学校も含めた協働体制を構築するよう努める。	①	A		
	2	生徒の自己実現を図るため、授業時間の確保に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。	1)	授業時数に偏りがないよう、時間割変更を的確に行い調整する。時間割変更業務の円滑な運営に努める。	①	A		
			2)	各教科との連携を密にし、より効果的な時間割編成に努める。	①	A		
			3)	授業交換のシステム変更に伴い、相対交換時のミスが発生しないように注意喚起し、複数人による体制を強化し、個人の業務量軽減に努める。	①⑨	A		
	3	各校務分掌、年次、教科が円滑に連携できるよう、学校運営の要として尽力する。また、これまでの取組に加え、今年度2年次に進級するサイエンス科の様々な取組についても積極的に支援する。	1)	校内定期考査の適正な実施に努め、公正な評価を行えるよう考査環境を整備する。	①	A		
			2)	生徒の出欠について、正確な状況の把握に努め、関係各部との連絡調整を円滑に行う。	②⑤	B		
			3)	生徒の多様な進路希望に対応するため、授業展開や実施場所の工夫を行う。	①②	A		
			4)	奨学金に関する情報を、正確確実に提供し、生徒のより良い学習環境の実現を図る。	①②	A		
	4	進学重視型単位制高校として、より選択幅の広い教育環境の充実を目指す。また、併設型中高一貫教育校として附属中学校との連携に取り組む。広報活動を強化し、本校の存在価値を周知できるよう努める。	1)	各科等で教育課程を工夫しやすいよう、様々な情報の提供に努める。	①	B		
			2)	附属中学校と連携し、学校説明会を含めた広報活動をより一層強化し、増える中高一貫校の中での本校の存在価値を高め、優れた生徒を確保し、本校の発展に寄与する。	①②	A		
			3)	附属中学校を含めた教育課程の研究を行い、併設型中高一貫校としてより効果的な教育内容の実施に努める。	①	B		
	5	進学重視型単位制高校として、ICT教育環境を整備し、魅力ある創造的な授業を目指し、相互授業参観や研究授業・ICT教育の実践を通じて授業方法及び評価の改善や研究に努める。	1)	教科や科目の目標と評価の観点を設定し、授業評価等のアンケートを通してその結果を可視化して検証し、PDCAによってその改善点を授業に還元できるように促し、教育効果が高まるような体制を確立する。	①②	B		
			2)	進路指導部や各年次と連携し、3年間を通した学習計画を充実させる。	①②	A		
			3)	総合的な探究の時間が円滑かつ効果的に実施できるよう各年次・担当部と連携・協力し進める。	③	A		
			4)	電子黒板やタブレットに関する問題点を改善し、利用環境を整備し、ICT教育が円滑に行われるように配慮する。	②	B		
			5)	教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努める体制を整備する。また、研究授業が盛んな中学籍の教員を活用し、「主体的・対話的」な深い学びを目指した授業研究・改善が行われるよう努める。	①②	B		
	6	特色ある取組として、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1)	イギリス海外研修、海外サイエンスセミナー、高大接続事業、高大連携事業等、本校における様々な事業について、実施方法や内容について検証するとともに、各部が連携しやすいよう努める。	①②	B		
	7	セキュリティ啓発とICT活用促進	1)	情報セキュリティ向上のための啓発活動を行うとともに、授業等でのICT活用が促進できるよう、教員研修を進める。	①②	B		
	8	校内サーバ、及び校務支援システムの安定運用	1)	校内ネットワークサーバと校務支援システムの安定運用に努める。	②	A		
	9	校内ネットワーク快適利用のための整備	1)	生徒所有PC、貸与PCのメンテナンス等、安全な使用方法をサポートし、教室無線LANなどの校内情報環境保守を確実に実施し、ICT環境整備を推進する。	②	A		
進路指導部	1	生徒一人ひとりの目標達成に向け、個に応じた適切な進路指導に努める。	1)	進路に関する資料や情報の収集・整理と分析を行い、生徒に対し進路を考える上での情報を積極的に提供する。	③⑨	A	A	・個々の生徒に対応した進路実現のため、外部資料だけでなく本校独自の資料を活用するなどの情報提供を行い、大学卒業後も含めたキャリア教育を実現する。 ・中高一貫教育校としての中高連携の深化を「日立一高学習ロードマップ」を活用してさらに進める。 ・多様なメディアを用いた課外授業や映像授業の活用、キャリア教育の方法を研究する。 ・外部模試活用の深化の方法を研究する。
			2)	生徒との進路相談を充実させるとともに、『進路資料』等を作成・活用しながら系統的な進路指導に努める。	⑥	A		
			3)	新しい大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、生徒個々の能力・適性に応じた多様な入試制度を活用して進路実現に努める。	①	A		
			4)	PTA学習振興委員会等の組織を活用したり、保護者への進路情報の提供を通して、生徒の進路に関わる大人を増やし、多様な立場から進路について考える場をつくる。	①	A		
	2	高校生活3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努める。	1)	「日立一高学習ロードマップ」の活用や「進路通信」の発行を通して進路・学習情報の提供に努める。	⑥	B		
			2)	LHR・進路ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して自己の将来について考える機会を持たせるなど、キャリア教育の充実を目指す。	①⑨	A		
			3)	充実した課外授業や映像授業の活用などを通して進路実現に必要な学力を養成するとともに、個別指導の充実により生徒個々の進路を実現するための最適な大学に対する合格率を高める。また、地域医療を支える医学部医学科への進学者を増やすための指導のノウハウを蓄積・活用する。	⑦	B		
			4)	様々な講演会や進路指導を通し、人生100年時代における将来を見据えたグローバルな視点で選択できる力を養う。	①	B		
	3	各年次及び各教科と密接な連携を図り、個々の生徒の進路実現のための組織的な進路指導体制を充実させる。	1)	外部模試を受験する目的意識を明確にして、結果の分析・整理とその活用を通して全職員で情報を共有し、事後の指導に活かす。	③	B		
			2)	大学入試等、進路に関する情報を収集・整理・分析し、各年次や教科に速やかに提供する。	③	A		
			3)	中高一貫校の強みを生かし、進路関係の研究会等に中高の教員が参加できる体制を構築し、積極的な情報交換と連携に努める。	②⑤	A		
	4	教員一人一人の進路・学習指導力向上に努める。	1)	大学や予備校等からの情報を進路指導部で集約し、職員に情報提供を行うとともに、教員対象の教科指導セミナーや研修会への積極的な参加を促し、教科指導や進路指導のスキル向上を図る。	①③	A		
保健厚生部	1	健康で安全な生活を営むために必要な自己管理能力と、あらゆる場面に応じた判断力を育てる。また、安心安全で充実した教育環境をつくる。	1)	健康診断・健康観察等を実施し、生徒一人一人の健康状態を把握し適切な健康管理に努める。	⑥、⑦	A	A	・教員を含め生徒の環境美化に努める意識改善が必要かと感じる。 ・学校生活が安心安全に送れるよう環境整備に努める。
			2)	防災機器の点検・管理、備蓄品管理を行う。避難訓練を通して生徒達の危機管理意識の高揚に努める。	⑥、⑦	A		
			3)	清掃活動やホームルーム・部活動等を通して、定期的な消毒等を行い学習環境の衛生管理及び美化に努める。	⑥、⑦	B		
	2	学校保健活動の推進と保健活動の向上に努める。	1)	学校保健委員会を通して1年間の学校生活の様子・体力測定の結果などを報告し、今後の取り組みに理解を求める。	⑥、⑦	A		
生徒指導部	1	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1)	様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	⑦	B	A	・外部からの苦情件数は僅かであったが、交通安全への意識不足や基本的なモラルの欠如によるものなので、安全への意識の高揚を図りたい。通学不通路の指導を繰り返し受ける生徒が出ないように、年次・担任にも協力を要請したい。 ・理由は様々ではあるが、基本的な生活のリズムが乱れての遅刻欠席も多いので、関係分掌との連携を図りたい。 ・教員も含めて、自由服を導入している意味や歴史の共通理解を図りたい。 ・次年度早々全職員に、いじめの早期発見と重大事態の対応について、周知徹底を図りたい。 ・不審者情報が増加しているので、引き続き注意を促していきたい。
			2)	講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法的重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	⑥⑦	B		
	2	「社会の模範となる人材」としてのマナーを身に付ける。	1)	「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会や地域社会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	⑦	A		
			2)	LHRや総合探究などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	③⑦⑧	A		
	3	安全教育の推進と事故防止に努める。	1)	登校指導（自転車指導・不通路指導含む）を軸として、交通安全指導を定期的に行う。	⑦⑧	A		
			2)	薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	⑦	A		
			3)	教務部や教育相談部等と連携し、校内研修会を実施し、教職員のスキルの向上を図る。	⑤⑦⑧	B		

渉 外 部	1	保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め、円滑なPTA活動を行う。	1)	新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。	①	A	A	・保護者および教職員負担軽減のための組織と各種委員会開催回数等の検討 ・生徒健全育成のための、さらなるPTA活動の模索
			2)	ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	①⑦	A		
			3)	広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画、運営を充実させる。	⑦	A		
			4)	各高等学校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。	⑥	A		
			5)	校外で開催される各種大会、研修会や校内で行われる委員会等の業務について、複数の教職員で対応することで個人の抱える業務量を軽減する。	⑧	A		
特活指導部	1	様々な学校活動、社会活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。また、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、社会に貢献できる人間の育成に努める。	1)	生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体で「望ましい学校像」を実現するため、意識の向上に努める。	①、⑦	A	A	・学校行事は生徒が主体となって企画・運営することができ、学校の活性化につながった。今年度から「クラスマッチ」「白壁祭」「体育祭」の毎年開催にあたり、恒例行事として充実した内容で実施できるよう企画立案、マニュアルの見直し、予算計画および実行委員の体制について、綿密な協議並びに合意形成を図ることに注力した。 ・クラス及び部活動などにおいて、リーダーシップのとれる人材が不足していることは否めない。リーダー研修会の実施を検討するなど、具体的対策が必要である。
			2)	学校行事やHRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	①、⑦	A		
			3)	体育祭や野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	①、⑦	A		
			4)	社会性や人間性を高め、地域社会においてリーダーシップのとれる人材の育成をめざし、またボランティア活動を積極的に推進する。	①、⑦	B		
			5)	部活動への加入を奨励し、その活動を数的・質的に活性化・充実させながら、学業と部活動の両立を目指す。	①、⑨	B		
			6)	部活動を複数の顧問で指導し、教員の心身の健康を維持することで活動内容の充実を図る。	⑧、⑨	A		
学校図書部	1	図書館利用の活性化と読書活動の充実	1)	生徒の読書意欲を高める図書の購入、展示の工夫を通して図書館の利用拡大を図る。また、活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	①、②、③	A	A	・図書館来館者数、貸出冊数をより増やす ・図書館利用の取組をより促す ・放送委員の活動をよりスマート、スムーズにする
			2)	各教科・各年次（高校）・学年（中学）および部活動等との連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	①、②、⑤	B		
			3)	館内の環境整備（館内配置の工夫、展示の充実やDVD等の新規図書資料の貸出、貸出システムのOA化）に努める。	①、②	A		
	2	校内放送の充実と放送技術の向上	1)	生徒主体に活発かつ学校行事の円滑な実施に資する放送委員会活動ができるように支援する。	①	A		
教育相談部	1	生徒がそれぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深められるように人格の成長の援助を図る。	1)	生徒の変化への迅速な対応のために、校内のケース会議、研修会、中高連絡会議等を速やかに実施し、共通理解を深め、協力体制を強める。	⑥⑧	A	A	・担任の負担軽減と早期対応のため、SC、SSW、外部関係者との連携はスムーズに回れた。 ・変わりゆく生徒一人ひとりに柔軟かつ早期に対応するために、専門知識を深めるとともに、より組織化を強めていく必要がある。
			2)	専門家（SC、SSWなど）のアドバイスを受け、生徒及び保護者と情報を共有し、生活向上のための援助を行う。	⑥	A		
サイエンス部 （サイエンス科）	1	日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	1)	最難関理工系、医・歯薬系大学への合格者数が増加するように、進路指導部及び年次・教科との密接な連携を図りながら、充実した企画や行事の実施を図り、生徒の学習意欲の高揚に努める。	①、②、⑦	A	A	・充実した海外研修旅行を実施できた。 ・メディカルセミナーに関しては生徒のモチベーションアップのための大まかな形はできた。今後の課題として、継続するためには医療機関との繋がりをもつ必要がある。 ・サイエンスセミナーでは充実した内容で実施できた。 ・地域に対して活動内容の周知を図りたい。
			2)	地域や大学の医師による講義、医療機関等（国内）での研修を柱とした「メディカルセミナー」の内容を充実させる。	①、②、⑦	A		
			3)	科学者や研究者による講義、研究機関等（国内）での研修を柱とした「サイエンスセミナー」の内容を充実させる。	①、②	A		
			4)	SSH事業と連携しながら「課題研究」や「海外研修」の内容を充実させ、プレゼンテーション能力の向上や国際的な視野の育成を図る。	①、②	B		
	2	サイエンス科の広報活動を充実させる。	1)	体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。	①、③	B		
			2)	ホームページ等を通して啓発活動に努め、サイエンス科を志望する生徒を広く募る。	①、③	A		
サイエンス部 （SSH）	1	「科学的思考力を持ち、ディスカッションができるリーダーを育成する」ための課題研究の充実を図る。	1)	「白壁研究Ⅰ」により、科学的思考力や科学的ディスカッションができる人材を育成するための研究をする。	②、③	A	A	【達成できたこと】 ・白壁研究ⅠおよびⅠ年次「総合的な探究の時間」の授業案の見直しを行い、目標達成のための手立てを、より具体的に示すことができた。 ・白壁研究Ⅱ・Ⅲを通して、生徒たちが主体的・協働的な取組ができるようになった。さらに、分野によってはⅡ（2年次）とⅢ（3年次）連携を強めることができた。 ・国際的に活躍する科学技術人材の育成に関しては、外部での発表会やコンテスト、研修会などに、生徒は積極的に参加し、高い評価を受けることができた。 ・SSHの普及に関しては、公開授業やHPでの広報活動を例年通り行い、ICT活用によって業務の効率化も図ることができた。 【次年度への課題】 ・中高で、SSHがかかる科学的探究活動において、指導法や様式の統一を検討することができたが、「中高一貫校」としては、連携が弱い部分があるため、次年度は、さらに連携を深めたい。 ・業務の細分化による作業の分散化について、昨年度と比較して進めることができたが、個々の作業量の軽減までにはつながらなかった。次年度は、個々の作業量の軽減をさらに進めたい。 ・Ⅰ年次の総合的な学習の時間や白壁研究Ⅰ、数学力育成講座において「統計学」を取り入れたことにより、一定の効果は認められる。しかし、生徒が自発的に活用できるまでには至っていない。次年度は、特にⅠ年次の総合的な探究の時間と白壁研究Ⅰの授業内容の改善に努めたい。
			2)	Ⅰ年次「総合的な探究の時間」において、生徒が普段から「目的」「方法（計画）」を意識して生活するようになる研究を行う。	③	A		
			3)	「白壁研究Ⅱ・Ⅲ」を通して、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的・協働的な取り組みができる生徒を育成するとともに、コミュニケーション能力やディスカッション能力を向上を図る研究をする。	②、③	A		
			4)	「白壁科学A・B」を通して、科学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深めるため、ディスカッションの機会を設けた授業を展開する。実験等により、研究の基本的なスキルの向上を図る研究をする。	②、④	A		
			5)	中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	③、④	B		
	2	国際的に活躍する科学技術人材の育成を図る。	1)	「白壁科学セミナー」「科学講演会」「科学研修会」「数学力育成講座」など、大学・研究機関・産業界と連携した取組により、科学に対する意欲・好奇心を高める。	①、④	A		
			2)	「白壁ネイチャースクール」「科学研究発表会」「科学系コンテスト」「科学の祭典」等に、生徒を積極的に取り組ませることにより、科学者の資質の育成を図る。	③、⑦	A		
			3)	「科学英語」「海外研修」「白壁英語セミナー」を通して、コミュニケーション能力の伸長を図る。	②、③	A		
	3	SSHの普及を図る。	1)	「SSH研究発表会」「SSH成果発表会」、及び「課題研究」に関する科目の公開授業を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	②、③、④	A		
			2)	「SSH研究発表会」「SSH成果発表会」、及び「課題研究」に関する科目の公開授業を実施に際して、案内や申込、アンケートなどをICTを活用して行うことで、出席者の取り纏めやアンケートの集計などの効率化を図る。	⑧	A		
			3)	SSH普及のための業務を細分化し、分担を明確にすることで、教員一人一人の指導力向上を図るとともに、作業の分散化により個々の作業量を軽減する。	⑧	B		
	4	課題研究の質の向上を図る。	1)	「白壁研究Ⅰ」や「数学力育成講座」において「統計学」を取り入れることにより、データの信頼性を高める活動をする。	②、③、④	A		
広報部	1	生徒確保に向けた宣伝活動を行う。	1)	ホームページ（中・高）の管理・運営を行う。	⑧	A	A	HPの掲載数は今年も増加しました。内容も毎年良くなっていると感じています。広報関係についても例年通り行いました。来年度以降新体制で活動する下地は固まったと思います。
			2)	中学校・進学塾等からの説明会の要請へ対応する。（中・高：教務との共催）	⑧	A		

第1年次	1	社会の一員となる自覚と規範意識を持たせ、自主・自律の意識を持たせる。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を持ち、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	①、③、⑨	A	A	・朝学習の徹底と家庭学習時間の確保指導などを通して学力の向上を図り、生徒自ら学習する習慣を身に付けさせる。 ・生徒の面談を重視するなど、個別指導の充実を図る。 ・疑問点をそのままにせず積極的に質問したり、セミナー等へ参加したりなど、生徒が主体的に行動できるよう指導する。 ・生徒の心のケアに対する連携をより強化する。 ・探究する心をさらに育て、研修旅行・修学旅行を意義のあるものにする。
			2)	HR活動や清掃活動等において心の教育を充実させ、マナーや倫理観を向上させる。	①、③	A		
			3)	豊かな人間性を育み、高校生活を前向きに継続していけるように生徒理解や保護者支援の充実を図る。	⑧、⑨	A		
	2	授業を大切にした学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けて基礎学力の定着を図る。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、朝学習や家庭学習の習慣を身に付けさせることにより学力の向上を図る。	②	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習記録表や学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。	②	A		
			3)	総合的な探究の時間を充実させるとともに、特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に組織的な支援を行う。	②、③、④、⑥	A		
			4)	授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。	②	A		
	3	高い志と目標を持つとともに、世界的な視野を持ち、社会に貢献する意欲を持たせる。	1)	進路指導部との連携を図り、面談実施、情報周知・共有化により、進路に対する意識を強める。	②	A		
			2)	HRセミナーや大学見学会を通して、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせる。	①、②	A		
	4	部活動やホームルーム活動、学校行事への積極的な参加により、協調性・社会性・愛校心を持たせる。	3)	SSH事業や国際交流事業などを通して、視野を広げ国際社会で活躍しようとする意欲を育成する。	①、②	A		
			1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	①、③、⑨	A		
			2)	課外の実施時間や時期の設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。	①、③	A		
第2年次	1	社会の一員となる自覚と規範意識を持たせ、自主・自律の意識を持たせる。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を持ち、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	③、⑦	A	A	2年次に部活動や学校行事、その他、校外のコンクール等で養った協同してよりよい環境を作ったり切磋琢磨して技術を磨いたりしていく態度を次の年度において、より発展させていけるようにサポートしていく。 3年次では、最高学年としての自覚をもち、各種行事で中心的役割を果たすとともに、進路目標に向かって各自が地道な努力をして学力をつけていく必要がある。仲間と支えあいながらよい学習環境を自分たちで構築していけるように支援していきたい。
			2)	HR活動や学校行事において心の教育を充実させ、マナーや倫理観を向上させる。	⑥、⑦	A		
	2	授業を大切にした学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けて基礎学力の定着を図る。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身に付けさせることにより学力の向上を図る。	①、④	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。	②、④	A		
			3)	面接の機会を設け、学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。特に支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に対し組織的な支援を行う。	⑤、⑥	B		
			4)	授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。	②、④	B		
	3	高い志と目標を持つとともに、世界的な視野を持ち、社会に貢献する意欲を持たせる。	1)	進路指導部との連携を図り、面談実施、情報周知・共有化により、進路に対する意識を強める。	①、②	A		
			2)	HRセミナーや大学見学会を通して、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせる。	①、③	B		
			3)	SSH事業や国際交流事業などを通して、視野を広げ国際社会で活躍しようとする意欲を育成する。	①、③	A		
	4	部活動やホームルーム活動、学校行事への積極的な参加により、協調性・社会性・愛校心を持たせる。	1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	①、⑦	A		
			2)	課外の実施時間や時期の設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。	①、⑧、⑨	B		
第3年次	1	将来、社会において自らが担う役割を自覚させ、深い思慮と優れた判断力・行動力を身に付けさせる。	1)	最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。	⑥、⑦	B	B	・生徒自身が向上心を持ち続けられるよう工夫する。 ・生徒の「たくましく生きる力」を養う。 ・書類作成等の進路業務の円滑化 ・新しいことに挑戦する心を忘れない。
			2)	日々の生活の中で、自己と社会との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。	⑥、⑦	B		
			3)	LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解・他者理解の深化を促し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身に付けさせる。	⑥、⑦	B		
	2	高い志を維持し、第一志望校合格を目指して、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1)	授業への集中力を高めさせると同時に、課外・サテライン・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。	②、④	B		
			2)	朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、最適な自学・自習の環境を作る。	②、④	B		
			3)	生徒の希望する大学や学習到達のレベルに合わせた課外授業や習熟度別授業を行い、レベルアップを図る。	①、④	B		
			4)	進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。	③、⑤	B		
	3	最高年次として、部活動をはじめ学校行事ならびに特別活動やホームルーム活動への主体的な取り組みを促し、集団に寄与する精神を育てる。	1)	文武両道（学習活動と特別活動の両立）を目指し、心身の調和がとれた優れた人間性とたくましく生きる力を養う。	①、⑦	B		
			2)	各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導するリーダー性を養う。	①、⑦	B		
	4	自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心の幅を広げ、国際社会において貢献できる人材の育成に努める。	1)	基礎・基本を踏まえ、それを応用できる力の育成を目指し、一人一人の探究心や科学的思考力を高める。	①、③	B		
			2)	授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の育成に努める。	①、④	B		

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分